

黒田家の名宝とゆかりの地の数々

270年の永きに渡り福岡と共に歩んできた歴史

福岡には黒田官兵衛と黒田家ゆかりの地が街中に点在しており、名宝の多くが福岡市博物館や福岡市美術館に所蔵されています。ここでは、その一部をご紹介します。

- 黒田官兵衛の名宝
- 黒田長政の名宝
- 福岡市博物館所蔵
- 福岡市美術館所蔵

16 福岡市博物館
早良区西渡辺3-1-1
地下鉄「西新駅」から徒歩15分
「黒田家名宝展示室」にて黒田家ゆかりの品々を常設展示している。大身槍「日本号」は常時展示。

17 福岡市美術館
中央区大濠公園1-6
地下鉄「大濠公園駅」より徒歩10分
開館に先立ち、御当主黒田長政氏の遺志を受けた茂子夫人のご厚意により、福岡市に黒田家ゆかりの品々が託され、広く市民に公開された。

桃山時代に描かれた初期洋風画を代表する名品



泰西風俗図屏風 (たいせいふうぞくびょうぶ) **重要文化財**
左に聖なる世界、右に俗なる世界を描き分け、キリスト教布教のために描かれた意図がくみとれる。四季の変化も表現しており日本人画家が描いたもの。

黒田官兵衛の印章
黒田官兵衛は、ドン・シメオンという洗礼名を持つキリシタン大名でもあった。高山右近らの導きによりキリシタンへ改宗したとされている。

梵字采配 (ばんじさいはい)
慶長5(1600)年、徳川家康より拝領した采配。黒漆塗りの串木には朱で不動明王・摩利支天・愛染明王の梵字が書かれている。

「黒田家重宝故実」で日本三名貝と賞賛する法螺貝
法螺貝「北条白貝」(ほうじょうしろがい)
福岡市博物館所蔵の刀「日光一文字」と同様、小田原攻めの際に北条氏から贈られたもの。

母里太兵衛像 (もりたいへいそう)
光雲神社の境内にある。右手に名槍「日本号」、左手には大杯を持った母里太兵衛の像。

11 光雲神社
大身槍「日本号」(にほんごう)
全長3メートル21.5センチメートル。刃の長さが79.2センチメートルもある。豊臣秀吉から福島正則が拝領したものを、京都伏見での酒宴で、大きな杯で飲めと強要された母里太兵衛がみごとに呑み干してこの槍を呑み取ったという話は「黒田節」にもうたわれて有名。

「官兵衛の赤合子」と恐れられた兜
朱漆塗合子形兜・黒糸威胴丸具足・小具足付(しゅうしぬりこうしりょうなりかぶと・くろいとどしどうるぐそく・こごそくつぎ)
兜は三代光之のときに作られた写しとされ、嗣は官兵衛所用とされている。「官兵衛の赤合子」と恐れられたという。官兵衛所用の兜は、現在はこちらが歴史文化館にて保管。

銀浴押一の谷形兜・黒糸威胴丸具足・小具足付(ぎんよくしりやいのたにがたかぶと・くろいとどしどうるぐそく・こごそくつぎ)
櫓の薄板で源義経の故事で知られる一の谷の懸渡を表す。表面には銀箔を押ししてある。博物館所蔵の黒田長政像(黒面)ではこの兜と具足を着用した姿が描かれている。

重要文化財

黒漆塗桃形大水牛脇立兜 (くろうるしめりももなりだいすいぎゅうわきだてかぶと)
黒田長政所用の兜。一の谷形兜以前に長政が愛用したもので、長政のトレードマークとなった。

重要文化財

太刀「日光一文字」(にっこういちもんじ) 国宝
小田原攻めの際、北条氏に降伏を説得し、その礼として北条氏から贈られたもの。華やかな刃文とその美しい姿で知られる名刀。

小田原攻めの際、北条氏から贈られた美しい名刀

刀「へし切長谷部」(へしきりはせべ) 国宝
当時の主君小寺政職にかつて織田信長に面会した際に拝領したものの。信長の怒りかかった茶坊主が櫓の下に隠れたところに、信長がこの刀を差し込んで押し切ったことが名前の由来。

秀吉から大きな期待を得ていた証
豊臣秀吉自筆書状(とよとみでよしじびつしよじょう)
織田軍の中国攻めの大将として派遣された秀吉が、官兵衛に宛てて「おまえは弟の一小郎(秀長)と同じように心安く思っている」と書いた書状。

死を覚悟した官兵衛が長政に書き与えた教訓の書
黒田如水自筆覚書(くろだじすいじびつおぼえがき)
文禄の役のさなか、豊臣秀吉の勸告にふれた黒田官兵衛が死を覚悟して黒田長政に書き与えた教訓の書。後継者や家臣の扱い方等について語る。

軍師官兵衛の辞世の句
黒田如水辞世和歌短冊(くろだじすいじせいわかつたんざく)
「おもひおく、言の葉なくてゐるに。道はまよハシ、なるにまかせて」と詠む。織田信長・豊臣秀吉・徳川家康という三人による天下取りのはざまで、存分に知略を尽くしたという深い意志が表れている。

黒田節ロボット
博多人形の顔(かしら)に博多織の衣装をまとい、福岡で歌い継がれている民謡「黒田節」に合わせて舞を披露するロボット。

ロボスクエア
早良区西渡辺2-3-2
地下鉄「博多駅」から徒歩10分

黒田節 日本号の歌
黒田節像
博多駅前広場の一角にある。左手に名槍「日本号」、右手には大杯を持った黒田武士の像。

1 博多駅
福岡市博多区博多駅中央街
地下鉄「博多駅」から徒歩すぐ

- 1 名島城跡**
東区名島1-26
西鉄/バス(29番)「名島」から徒歩15分
福岡藩初代藩主・黒田長政も初めはこを居城としたが、城下町の発展に不便な土地であることから、慶長12年(1607)の福岡城完成、移転に伴い廃城となった。
- 2 勝軍地藏堂**
東区箱崎6-7-13
地下鉄「貝塚駅」から徒歩10分
寛永8年(1631)に福岡藩二代藩主・黒田忠之が建立し、明治42年(1909)に九州大学工学部が建設される際、この地に移転した。
- 3 恵光院**
東区馬出5-36-35
地下鉄「箱崎宮前駅」から徒歩5分
福岡藩二代藩主・黒田忠之の開基により、寛永年間(1624~1644)に建立された。千利休が豊臣秀吉を招いて茶会を開いたという伝説がある。
- 4 福岡藩主黒田家墓所**
博多区千代4-7-79(黒福寺内)
地下鉄「千代黒府口駅」から徒歩5分
黒田家の菩提寺だった黒福寺の境内。藩祖・黒田官兵衛、初代・長政、四代・綱政、六代・継高、七代・治之、九代・斉隆の歴代藩主とその一族、また直方藩主などを中心に祀られている。昭和25年に改葬工事が行われ、二十数基あった石塔は官兵衛などの一部を除き廃された。現在は12基の石塔が残されている。
- 5 崇福寺**
博多区千代4-7-79
地下鉄「博多駅」から徒歩5分
慶長5年(1600)、福岡藩初代藩主・黒田長政により現在地に移転され、黒田家の菩提寺として庇護を受けた。山門は、旧福岡城の表御門を移築したもの。
- 6 東長寺**
博多区御供所町2-4
地下鉄「博多駅」から徒歩1分
福岡藩二代藩主・黒田忠之によって現在地へと移った。墓地には福岡藩二代藩主・忠之、三代藩主・光之、八代藩主・治高の墓がある黒田家の菩提寺。
- 7 東林寺**
博多区博多駅前3-7
地下鉄「博多駅」から徒歩5分
元禄9年(1698)、福岡藩三代藩主・黒田光之の幸臣・立花東山が本寺を建立し、加賀大衆寺の元山和尚が招かれて開山した。
- 8 水鏡天満宮**
中央区天神1-15-14
地下鉄「天神駅」から徒歩5分
当初は今泉にあったものを、江戸時代初期に福岡藩初代藩主・黒田長政が、福岡城の鬼門にあたる現在地に東の鎮守として移した。
- 9 安国寺**
中央区天神2-2-20
地下鉄「天神駅」から徒歩3分
慶長5年(1600)、豊前から筑前藩主・黒田忠之の幸臣・天師全権禪師(てんおうぜんげんし)のために、豊前の安国寺を移した。
- 10 警固神社**
中央区天神2-2-20
地下鉄「天神駅」から徒歩3分
福岡城鎮守の神。福岡藩二代藩主・黒田忠之の産神として、歴代藩主の崇敬が厚かった神社。
- 11 福岡城**
中央区城内
地下鉄「赤坂駅」から徒歩8分
福岡藩初代藩主・黒田長政が、慶長6年(1601)から7年がかりで築城。平山城で、大小の各天守台と47の櫓があった。現在は多聞櫓(重要文化財)、潮見櫓、大手門、祈念櫓、母里太兵衛部長屋門、名島門などが保存され、大天守台は展望台になっている。
- 12 舞鶴公園**
中央区城内
地下鉄「赤坂駅」から徒歩8分
福岡市の中心、天神からも徒歩約15分と近く、福岡城をシンボルにした公園。四季折々の自然が満喫できる様の名所としても有名。黒田官兵衛が晩年を過ごした御鷹(屋敷)がある。
- 13 大濠公園**
中央区大濠公園
地下鉄「大濠公園駅」から徒歩すぐ
黒田長政が福岡城築城の際、当時博多湾の入り江の一部だったこの地域(町ヶ江と呼ばれていた)を埋め、福岡城の外濠(大濠)として城の護りとしたのがその名の由来。
- 14 光雲神社**
中央区西公園1-3-1
地下鉄「西公園」から徒歩5分
福岡藩の藩祖、黒田官兵衛と初代藩主・黒田長政の親子を祀る神社。その名前はふたりの法名から一字ずつを取って付けられたもの。元々は福岡城内本丸の天守台の下に作られた神社だが、明治4年の筑港工により黒田家が東京に移転した際、現在の豊園神社近くに移転。その後、西公園山頂へと移った。
- 15 西公園**
中央区西公園
地下鉄「西公園」から徒歩5分
万葉の時代、荒津山と呼ばれた景勝の地が現在の西公園。展望台からは、東に福岡市街地、北に博多湾や海の中道、志賀島など見事な景観が一望できる。
- 16 友泉亭公園**
城南区友泉亭1-46
地下鉄七隈線「本太駅」から徒歩25分
福岡市指定名勝。福岡藩六代藩主・黒田継高が旧早良郡田島村に建てた別荘。奥ゆかしき日本の美を漂わせる歴史公園として今日親しまれている。
- 17 紅葉八幡宮**
早良区高取1-26-55
地下鉄「藤崎駅」から徒歩8分
福岡藩三代藩主・黒田光之が早良郡橋本村にあった小さな社を西新の地に移した。西新の町はこの神社を中心に発展したとされる。
- 18 八雲神社**
西区今宿上ノ原宇天神
地下鉄「上青木」から徒歩3分
市指定の有形民俗文化財の若武者結核は、福岡藩四代藩主・黒田綱政が、元禄14年(1701)に青木神社(祇園社)へ奉納したものの。

母里太兵衛が呑み取った、日本一とうたわれた名槍